

Photo Essay

難民キャンプ



マルカにある、ヨルダン国内でも大きな“パレスチナ難民キャンプ”
キャンプ内を案内してくれたニダール氏の近所で健康的な笑顔に出会った

キャンプの路地に軒を並べる八百屋には野菜や果実が山積みされ、
商店街は物と活気に溢れていた
ついカトマンズやマニラ比べてしまうせいか、
思っていたような“貧しい”風景がここには無かった。

キャンプの外に住むパレスチナ人は、ある意味ここで成功した人たちで、
国連の「教育、医療、食料など」の支援を必要としない
そして、中東和平プロセスが終結しても彼らはこの地に留まるだろう
一方、キャンプ内の住民は“望郷の民”と呼べるだろう

近代兵器 対 住民隆起

ユダヤ 対 アラブ

この復習劇はいつ終わるのか？

この子たちもいずれ「復習は正義だ」と洗脳されてしまのだろうか？